

2020年度 英語科オンライン授業実践報告

英語科 塩飽 りさ、曾根 典夫、高木 哲也
物井 真一、矢田 理世

はじめに

2020年4月6日午後、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が発令される前日、英語科の教員全員が会議室に集まり、勉強会を開いた。少なくともこの先1ヶ月は教室で授業はできなさそうだ、まずは生徒たちとつながるために、Google Classroom（以降 Classroom）の使い方を会得しよう、という目的である。この段階で、Classroom を授業で使ったことがある教員は限られていた。実際のところ、オンライン授業のあれこれやコンピュータに長けている人は教科内におらず、「例えるならば、ストリームはみんなが見られる掲示板、という感じ？」と言うような初歩的な話をしながら、架空の Classroom を作って、お互いを招待し、課題を出し・・・と一緒に練習したのを今も鮮明に覚えている。それから7月末までの約4ヶ月、これまで経験したことのない「オンライン授業」と格闘した。毎日、Classroom や Zoom 越しでまだ会ったことのない顔の見えない生徒たちを相手に、さまざまな失敗を重ねながら「授業」をこなした。教科内でアイデアを出し合い、良かったことも失敗したことも含めて情報交換をし、時に愚痴をこぼし、慰め合いながら、先の見えない日々を過ごしてきた。英語科で取り組んだ内容をまとめたのが次項の表である。

8月末から無事に教室での授業が再開された後は、オンライン授業を記憶から葬り去りたい思いもあったが、12月の研究大会に向けて、私たちのオンライン授業実践を振り返る機会を得た。これまでずっと英語科は、研究大会では授業公開と合評会を実施してきたが、今回この形態は諦め、かわりにそれぞれのオンライン授業実践をダイジェストで発表することとした。準備の段階では、どこに焦点を当てて話すのか、対面授業に活かせる点は何か、発表者同士が話し合う場を持ち、それぞれの授業を振り返る貴重な機会となった。大会では各科目から5名が異なる切り口で順に実践報告をした。今回は、紀要という場を借りて発表者それぞれが大会で話したことをまとめるとともに、オンライン授業の経験から今後の授業展開に活かせるものを見出す場としたい。

1年生の授業については、コミュニケーション英語Ⅰ（高木）の Zoom における授業で、生徒の心的負担を減らしながらもお互いに学び合う場を保障しようと、チャット機能を有機的に用いた授業実践の報告がされている。英語表現Ⅰ（曾根）では、ネイティブの先生との時間を確保する意図で、6クラス合同、250名の一斉 Zoom 授業に挑んだ授業を紹介している。2年生のコミュニケーション英語Ⅱ（塩飽）では、Classroom や Zoom の様々な機能を試しながら、生徒のニーズに沿った授業展開を探った様子をまとめている。3年生のコミュニケーション英語Ⅲ（物井）では、1年次から継続してきた授業の流れを尊重して生徒たちとの信頼関係を基に授業を進めた報告を通し、軸を持つことの重要性について考察している。3年生の選択科目オーラルプレゼンテーション（矢田）では、Zoom 授業とその後の対面授業を経て、コミュニケーション能力を養う上での重要な要素について振り返る。最後に、2・3年生の共通課題として英語科スタッフ合同で作成したリスニング動画の課題配信を通し、課題のあり方や生徒同士の学び合いの活用方法について考える。

外国語科 2020年4月～7月 オンライン授業での授業・課題一覧

学年・科目	課題内容	提出・評価方法	4技能
全科目：英語・独 語・仏語・中国語	Zoomでの授業 週1-2時間、クラス・学年別	Formsでの小テストや授業の感想 提出など授業内で指示	
1年 コミュニケーション 英語I	2種類の動画を見る ①教科書本文のオーラルイントロダ クション、QA、解説 ②音読、リテリング	Formsで内容確認問題に回答する 疑問・質問等はまとめて回答して PDFで共有	Listening Reading Speaking
	おすすめのTED動画URLとディクテ ーションプリントを配信する。(任意 課題)	特になし	Listening
1年 英語表現I	教科書の練習問題の解答(解答例付 き) 教科書のトピックに応じた英作文	Formsで英作文のみ提出→個別に コメント添付、PDFで共有	Writing
	ティームティーチングで学習した内 容を英語で書く	Formsで提出、ブレイクアウトセッ ションで話した内容を記述→フィ ードバックをPDFで共有	Listening Speaking Writing
2年 コミュニケーション 英語II	教科書本文のComprehension Questions	Formsで提出→個別にコメント添 付でフィードバック	Reading Listening Writing
	教科書の章末問題(リスニング問題含 む)		
	レッスンの内容についての英文コメ ント		
2年 英語表現II	与えられたトピックに基づいて英語 で意見を書く	Formsで提出→要約をPDFで共有	Writing
	教員が英語で雑談する動画を見る	Formsで内容確認クイズ、学んだ ことを記述	Listening
	おすすめの英語の歌(URL)を毎週紹介	なし	Listening
3年 コミュニケーション 英語III	教科書の英文の解説動画	Formsで内容確認クイズ 教科書本文に関する課題英作文 (60-100語程度)→一部の作文を PDFで共有	(Reading) Writing
	教員が英語で雑談する動画を見る	Formsで内容確認クイズ、学んだ ことを記述	Listening
	教科書の関連動画聞き取り	Formsで聞き取った語を答える	Listening
	おすすめの英語の歌(URL)を毎週紹介	なし	Listening
3年 英語表現III	与えられたトピックに基づいて英語 で意見を書く	Formsで提出→フィードバックを PDFで共有	Writing
	教科書(パラグラフライティング)の 解説動画	Documentで提出→個別にコメント 添付でフィードバック	Writing
	全英連英作文コンテストの課題英作 文	Documentで提出→個別にコメント 添付でフィードバック	Writing
3年 オーラルプレゼン テーション	授業の振り返りを英語で書く	Formsで提出→要約をPDFで共有	Writing

本校のオンライン授業を支えた各ツールの説明は、以下の通りである。

- **Google Classroom** (本稿では Classroom と表記) : Google 社の提供する教育支援サービス **G Suite for Education** のひとつで、オンライン授業支援のための総合的なツール。クラスや学年ごとに Classroom を作成でき、教員と生徒や生徒同士の web 上でのやり取りが容易にできる。教員は担当するクラスや科目ごとに Classroom を作成し、運営する。同様に、生徒たちも授業やホームルーム、委員会など、いくつもの Classroom に所属している。
- **Google Forms** (本稿では Forms と表記) : アンケートフォームや投票フォームなどを自由に作成できるツール。提出されたものを簡単に一覧表 (**Google Sheets**、本稿では Sheets と表記) に変換することもできる。
- **Zoom** : Web 会議サービス。「ブレイクアウトルーム」という機能を使うと、参加者をグループに分けることができる。その他、「画面共有」や「ホワイトボード」の機能を使うと、スクリーン上で同じ情報を共有したり編集することができる。本校では、4 月中旬には Zoom の教育プランを契約し、教員 41 名分のアカウントを取得した。教員・生徒ともに、多くの授業や教科外活動に活用している。今回報告した 2020 年度の研究大会も Zoom で実施した。

なお、**G Suite for Education** は本校では 2014 年から導入した。生徒たちは入学時に Google のアカウント (**G-mail** アドレス) を取得する。その後、メールの書き方、レポートやスライドの作成、そして課題の提出方法など、**G Suite for Education** が提供するさまざまなツールの使い方を、1 年生の情報の授業で習得する。

(文責 矢田)

I チャット機能を利用した授業について 高木哲也

1. チャット機能とは

ウェブ会議システムを利用して、ミーティング参加者同士が文字情報を送受信できる機能である。ミーティングを開催するホストには自動的にその文字情報が保存される。本稿はウェブ会議システム Zoom のチャット機能を使用した実践報告である。

2. 2020年5-7月のオンライン授業においてチャット機能を積極的に使用した経緯

第2回全校アンケート（2020年5月実施）で、ある生徒が「Zoom利用の英語の双方向授業内で、生徒に英語で回答を即座に求めているが、指名された側がどれだけ不安でプレッシャーのかかることか先生方はわかっているのでしょうか」と回答した。また、オンライン授業内で別の生徒から「Zoom授業内で指名された際に答えることは、対面授業で全体発表することと似ている」、という意見も挙げられた。以上の2点に加えて、高校1年生は対面授業を一度も実施できていない状況も鑑みた結果、情意面で発言のしやすい「チャット機能を利用した活動」を積極的に取り入れることにした。

3. チャット機能を利用したライティング課題

2020年度担当のコミュニケーション英語 I では、2020年5-7月期間にオンデマンドの動画教材を配信した。内容は普段の対面授業で附属高校英語科が軸としている指導手順（矢田，2019）に沿ったものであり、各家庭で視聴することで最低限の学習保障を図った。以上の学習に加えて、週に1度 Zoom 授業を実施したが、参加する意義や付加価値をどのように見出すか、常に試行錯誤する日々であった。本稿では2020年7月に実施した活動を報告する。なお、使用教科書は *Revised LANDMARK English Communication I*（啓林館）Lesson 3 School Uniforms であり、国内外の学校の制服事情に触れた後、制服の是非に関する6か国アンケートの結果が述べられる。

[Lesson 3 Part 4 教科書本文]

Are you for or against school uniforms? The same survey asked the students why they are for or against school uniforms. Here are some reasons in favor of school uniforms. First, uniforms can prevent bullying related to the clothes which students wear. Second, uniforms can increase their sense of belonging to their school. Third, uniforms can indicate their social status as students. Fourth, uniforms can put students into the mode of studying. There were also some unique answers such as “because I can practice how to tie a tie.”

What are the reasons against school uniforms? Some students insist that they cannot show their originality when they wear a uniform. Others worry that their uniforms may limit their freedom. Still others say they do not want to feel formal at school. Some think that uniforms can be worn only at schools, not at other places.

How about you? What is your opinion?

(a) 教科書本文の内容をより詳しく理由付けする課題

Part 4 で述べられる学校の制服に対する賛成意見、反対意見の英文 1 文を選び、その理由をより詳しく説明する英文を書きなさい。また、その意見に反対する場合は反対する理由を英文で書きなさい。

(例 : Uniforms can increase their sense of belonging to their school. Because each school has their own history and tradition, the school uniforms can clearly show their schools' color. We can feel a member of the school by wearing the traditional clothing.)

【生徒解答例 (原文ママ)】

- (1) Others worry that their uniforms may limit their freedom. We can't control uniforms with temperature, so they are too hot in summer, but they are too cold in winter. It is not good at health.
- (2) Third, uniforms can indicate their social status as students. For example, if we wear the school uniform, we can use "Gakuwari" at many shops.
- (3) Some think that uniforms can be worn only at schools, not at other places. →(反論) We can wear it at formal places. For example, entrance exam, wedding, and so on.
- (4) I'm not in favor of fourth agreement opinion. In actually I don't put into the mode of studying. It's the same matter what I wear.
- (5) Second, uniforms can increase their sense of belonging to their school. When I was on a baseball team, everyone wear the same uniforms. Our motivation was increased. Therefore it was right.

(b) 教科書題材の学びを生かして、質問に答える課題

Lesson 3 は「あなたは学校の制服についてどのように考えるか」、という問いかけで本文が終わる。教科書内容はもちろん、教科書外の情報や教師の制服に関する話など、様々なインプットを経た最後の課題として条件英作文を設定した。内容は、制服指定の小学校に通う弟、妹から兄、姉である生徒に「お兄ちゃん、お姉ちゃんは制服がなくていいね！私もカジュアルな服で学校に行きたい！何で制服を着なくてはいけないの？」といった質問を受ける、という状況で「あなたはどのように答えますか」である。教科書は主に中高の制服事情を述べていた点や、地域によっては小学校で制服指定の学校も多いことも、授業動画や教師のスモールトーク (英語) で触れている。自分の考えを整理することはもちろん、小学生の弟、妹に伝える設定のため、出来る限り簡素な表現かつ説得力のある内容をいかに短い英文で書けるか、という出題の意図であった。生徒の解答を読むと、教科書内容を踏まえた記述が見られたことに加えて、生徒自身の経験や考えを書いているものも多く見られた。

【生徒解答例 (原文ママ)】

- (1) That's a good question ! I think that everybody have the right to wear clothes they like. But it was your decision to go to the school,so you have to follow your school rules.
- (2) I have not worn school uniform, but I think it is very nice. We can only wear school uniforms when we are students. I chose the school without uniforms, so I envy you.
- (3) By wearing a school uniform, people can recognize your school easily. So, it is useful when you have an

accident or get in trouble.

- (4) You should wear the uniform, because you can save the time in the morning if you wear the uniform. You don't have to choose and worry about your cloths.
- (5) That may be a complicated question, but I think you can solve it easily, I think your school wants you two, students to feel like you belong at school and not left out. I think it's not entirely bad to wear a school uniform, but if you don't want to wear it so much, then you can change to a school without uniforms for middle school! Then maybe you can understand both the pros and cons of wearing a uniform.

4. 分析対象とする生徒のチャットコメント

チャット機能を利用したライティング課題上記 (a) (b) 実施回の授業終了時のコメント (回答数 98) の中で、チャット機能で意見の共有をしたことに関する言及や、チャット機能そのものに対する感想 (回答数 15) を拾い上げてコーディング分析した。

順位	コード	*データ数	データ
1位	意見共有に対する肯定的感想	8	今日は、他の人の意見も聞けたので良かったです。
			みんなのチャットを見ていると書いてることが一人一人全然違うので、見ていて面白いなとも思いました。
			チャットで共有することで、手軽にたくさん人の意見が見れてよかったです。
			今日はチャットを通してみんなの意見を知れて面白かったです。
			チャットを使うとみんなの考えとかが聞けて面白かったです。
			チャットで共有することで、手軽にたくさん人の意見が見れてよかったです。
			みんなの意見もみることができたのでよかったです。
2位	文字を打つ困難さ	4	みんなのライティングがすごく驚いた。ほくもがんばりたい
			ライティングもパソコンでやると時間がかかりますね。
			チャットで英文を打つのが大変でタイピングを早くしたいです。
	チャット機能の楽しさ	4	チャット機能は少し使いづらいと感じました。キーボードではなくa.b.c順に並んでいてうつのが難しく、時間内に打てないことや接触の影響で送れないことがありました。すいませんでした。
			あんまりチャットで送ることができませんでしたが、考えることはできたので良かったです。
3位	意見共有が読解練習になる	2	英語が拙いので不安を同時に漢字ながらだが、チャットに答えを送るのは新鮮で楽しかった。
			このような形で自分の意見や考えたことをチャットをつかって進めていくのは初めてだったのでとても面白かった。
			This zoom class is unusual But it made the most of zoom's ability. I enjoyed attending this.
			チャットのほうが発言しやすくやりやすかったです。
			自分の意見を英語で表現することは難しいけれど、日との意見を英語で読むことも難しいと感じました。たくさん経験を積んで早く慣れるようにしたいです。
			ほかの人の意見も読むことができたので読解の練習にもなったと思う。
*一人の生徒が異なるコードについて述べている場合、分けて分析したため回答数と異なる。			

5. 考察

チャット機能を利用したライティング活動は対面授業と比較して、より多くの友人の解答を読む機会となったことに関する肯定的な意見が多かった。ただし、本稿では生徒に具体的なコメントを求めているなかったため、実際どのような点で良かったのか、という点までは解釈できない。本実践から考えられるチャット機能の利点は①文字情報として記録が残るため、生徒間の学び合いになる、②生徒にとってチャット利用の回答はしやすい、③生徒の反応や学びを即座に集約できる、④教師が授業を

振り返る際に大いに役に立つ、ということが挙げられる。③、④については ICT 活用の大きな利点であり、対面授業において達成される可能性が低い、と言える。

私はオンライン授業の利点をそのまま対面授業で再現することは得策とは考えていない。大量の英文を即座に共有できる点は良いが、膨大な量のインプットをどのように処理して、どのような学びを促進させることができるかは本実践のみではわからない。しかし、チャット機能を利用したライティング活動を通して、普段の対面授業に生かせる点を見出すことはできる。特別大きな変化ではないが、生徒間で意見を共有する場面をより多く設ける、ことが挙げられる。例えば、ライティング課題に取り組んだプリントを回収する際や返却する際に、友人と読み合うことで複数の意見を共有する機会となる。また、生徒が友人の回答から学んでいることは内容面であるのか、言語面であるのか、もし言語面であるならばどのような気づきが得られたのか、そしてその学びはその後のアウトプットにどのように影響するのか、について実践研究をしたい。持続可能なインプット活動を定期的に設定して、生徒が友人からより多くの気づきが得られるよう、上記のような指導における一工夫を今後も続けていきたい。

参考・引用文献

竹内 理 他. (2016). *Revised LANDMARK English Communication I*. 啓林館.

矢田 理世. (2019). 「英語の授業での「やり取り」を分析する」 『筑波大学附属高等学校 研究紀要第 60 巻』.

II 英語表現 I における Zoom を用いた Team Teaching の取り組み 曾根典夫

1. 英語表現 I の授業について

「英語表現 I」は2 単位時間を配当し、3 人で6 クラスを担当している。検定教科書 *CROWN English Expression I* (三省堂) を扱う 1 時間、ALT とのティームティーチング (TT) が1 時間の構成である。TT では、「聞く」「話す」「書く」活動を中心に独自教材を作成して実施している。教科書に沿った文法学習に焦点を置いた週 1 回の配信課題(4 月～7 月)については、ここでは割愛する。

2. Zoom を用いた授業について

2-1 フレームワークの統一

TT については、通常授業においても、全クラス同じ指導案で授業を展開するので、オンライン授業でも同様に共通の指導案で授業を展開した。Zoom を用いた TT での特徴は、メインの日本人教員(JTE) と ALT が授業を展開し、他 2 名の JTE がサブとして入り、オンライン上での生徒のコメント対応に当たった。1 学年 6 クラス (250 名) を一度に指導する方法をとった。250 名の学年一斉授業にした理由は、ALT の勤務が週 1 回であることと、週当たりの Zoom 配信回数の制限があるためである。TT では生徒が学習の流れをつかみやすくするために、フレームワークを以下の通り統一した。

- (1) SHORT TALK
- (2) QUESTIONS
- (3) SHORT COMMENTS FROM THE TEACHERS
- (4) DICTATION
- (5) ACTIVITY

(1) SHORT TALK は、ALT と JTE の日常の対話である。台本を作成し、そこに各時間のターゲットとなる文法項目を取り入れる。ALT と JTE の時折入るアドリブも含め、何気ない会話を通して英語に触れさせる機会となっている。特に、Krashen (1984) にあるように、comprehensive input (理解可能なインプット) を十分に浴びることが重要であるため、生徒の現在の英語レベルを少し超えた言語項目を含め、その場の状況や前後関係などからその意味が理解できるものとなるように配慮した。

(2) QUESTIONS では、(1)の対話の内容について、質問を 3 つする。それぞれの質問を生徒に投げかけ、答を確認する。生徒のレスポンスに対しては質の如何を問わず何らかの肯定的な評価をするように配慮する。回線の状態も考慮して、スライドで質問とその解答例を示した。

(3) SHORT COMMENTS FROM THE TEACHERS

では、必要に応じて文法項目の機能について、例文を通して確認する。また(2)での回答について、サポートをしている他の 2 名の JTE とのやり取りをする。ここでの会話の内容については



QUESTIONS
1 What has Monoi-sensei been doing since 10:00 in the morning?
(He has been shopping for the past hour since 10am/ 10:00.)

ここに生徒の顔が表示されている

生徒に質問をしない。

- (4) DICTATION では、(1)で使用された文法項目を含む英文を聞き取り、書かせることで知識の確認をする。書き終えたタイミングで、画面上に該当する英文を表示して即座に正しい英文を確認できるようにする。
- (5) ACTIVITY では、与えられた言語材料を使って話す活動をさせる。前日（月曜日）の課題配信に合わせて、ハンドアウトを Classroom を通じて配布する。(1)～(4)の流れを踏まえて、ハンドアウトの指示に従って自分の考えをまとめ、その後 Zoom での班活動（約7名）に入る。ここでのおやりの取りのまとめを授業終了後に Summary として 60 語程度の英語で Forms に提出させる。

2-2 Zoom 授業の学習一覧（5月～7月）

5月12日に第1回の Zoom 授業を開始し、7月21日までの学習の概要は以下の通りである。

第1回	5/12	自己紹介	Summary Writing: Using the information from the activity, the students write summaries about the JTL and the ALT.
第2回	5/19	現在完了形 Have you ever + 5 different verbs ...?"	Summary Writing: Students write about the experiences of his/her group member(s) during the Breakout session. Also, they will try to add a few details about what they talked about.
第3回	5/26	様々な疑問文 Do you...? / Have you ever...? / When is...? / Can you...? etc.	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries after the activity using Interrogative sentences: (A)Write three sentences about students who answered (YES)/ (b)Write three sentences about students who answered (NO).
第4回	6/2	未来表現 (Future, Summer Vacation)	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Future Tense: Future plans of your group member(s).
第5回	6/9	現在完了進行形 What have you/people close to you been doing today?	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Present perfect progressive.
第6回	6/16	過去進行形	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Past progressive: What they were doing on Sunday.
第7回	6/30	助動詞	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Auxiliary verbs.
第8回	7/7	受動態	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Passive: "What chore are you told to do at home?"
第9回	7/14	不定詞 would like to, try to, decided to, etc.	Summary Writing: Introduce the group members with a reason or an explanation after the interview using the Infinitive.
第10回	7/21	動名詞 doesn't mind~, can't stand, regrets, is crazy about, etc.	Summary Writing: the students use the information in the activity in their summaries using Gerunds. *夏休み以降、対面授業となる。

回線の状態によって、Zoom に時間内に参加できない生徒もいることが考えられるため、授業は録画し、Classroom で URL を伝えていつでも生徒が見直せるようにした。毎回、Forms による writing の活動を入れたことで、生徒が文法項目（現在完了進行形、受動態等）を理解しているかどうかを確認す

ることができた。誤って理解している生徒には個別に返信するコメントに扱われた文法項目を明示したり、誤りが多い場合にはPDFファイルにして全員に共有した。

3. Zoom 授業での課題とフィードバック課題提出について

Forms で月曜日にハンドアウトを配信し、火曜日に授業、金曜日に提出と、締め切りには4日間の幅を持たせた。解答する内容は、授業で扱ったもので、Summary と最後の感想では自由度を持たせた。Dictation については、最初は聞き取りがうまくできずに、書けなかった生徒も、聞き取りに慣れることでだんだん書けるようになったという声が複数あった。課題提出をした時間が Sheets に反映されるため、提出時間の傾向が以下のように見られた。昼食時や夕食時には出されていないので、規則正しい生活を送っているのではないかと推察される。

11:00~12:20 / 13:20~18:00 / 21:00~23:00

質問 回答 80合計点: 0



Team Teaching June 9 Class 4&6

本日の各Activityの解答を以下の項目に従って提出してください。

- 1 英問英答
- 2 ディクテーション
- 3 Activity
- 4 感想

1 Q3. Which country is Norio intending to visit during the summer vacation? *

記述式テキスト (短文回答)

2 Dictation (1) *

記述式テキスト (短文回答)

3-1 第5回 6/9 現在完了進行形 での課題提出例

質問例：What have you/people close to you been doing today?

WRITING: Summary of the Activity: Introduce one of your group members.

*以下氏名を除き、すべて原文のまま

(A) ***-kun's mother has been watching exercise video since a week ago. He don't know what his father is doing because his father not in his house right now. He has been learning English for 4 years. He has been living in Chiyoda state for 13 years. He has been going to *Fuzoku* for 4 years. He came to *Fuzoku* from junior high school.

(B) I will introduce Ms.***. Her father is working at home now and he has been working for about an hour. She has been learning English for four years since she was a junior high school student. She lives in Nerima-ku and she lives there for fifteen years when she was born. Her best friend in Tsukuba-Fuzoku called her this morning.

(C) Mr. ***'s father is working now. He left his house at 7 and went to the office. He has been working since 9:00. His mother is cleaning the house. She has been cleaning for two hours. She cooked breakfast before cleaning. He has been learning English for 6 years. He started learning English when he was 10 years old. He has been wearing that T-shirt for about 4 hours.

(D) A boy's father was working next to him when the breakout session. And, he was wearing black T-shirt since this morning. He said he likes black. He has lived in Setagaya-ku for nine years. He has been learning English for three years. He has been going to Fuzoku schools for three years. So, he is what we called a Chugai-sei.

3-2 生徒からの感想（日本語・英語問わず自由記述）

(A)Today's Bob and Norio-sensei's conversation was really interesting. Not many people could answer the questions correctly, so I think it was harder than usual. When Bob said""Quebec,"" I thought he said the name of a country I didn't know, but after that he gave us a hint that the name of the place he had said earlier was not a name of a country, so that's when I figured out that the answer for question 3 was Canada.

(B)I want more time for group sessions.

(C)3 番の Activity では、時間が足りなかったため二人分の紹介をしました。今度はもう少し長めにブレイクアウト・セッションの時間をとってほしいです。授業が始まる前の夜行バスの話とケベック州の話がとても興味深かったです。ケベック州だけ呼び方が変わるなんて不思議です。Bob の話を毎週聞いていると、実際に海外に行って文化を肌で感じたくなりなす。来週も楽しみにしています！

(D)"ボブと先生たちの会話が面白く、集中して聞けた。集中すると時間はあっというまで、15分ぐらいにしか感じなかった。次回も集中して聞きたい。最初の問題の答えを聞き取る課題で、have+動詞の過去分詞形で完了形が表せるということを知っていたので、答えるときもそのような点に注意したいと思う。

(E)グループセッションの時間が短かった。グループメンバーの紹介は、グループメンバーのうちの一人ではなく、メンバー全員についての紹介のほうが大変やりやすい。

(F)いきなり質問が飛んできてびっくりしました

(G)まだブレイクアウトセッションが慣れないですが、だんだん話せる量が増えてきた気がする。have been ~ing の使い方がわかった。

(H)ボブがなんて言っているか少し聞き取れるようになったのが嬉しかった。

(I)質問しあう時間がみんなあまり喋らなくて気まずかったです。

(J)今回グループセッションで同じグループになった人たちは積極的に話してくれる人が多かった
のでスムーズにアクティビティを行うことができたので良かったと思う。ただそれとともに自分の
英語力の不足を感じたので、これからの授業を通してもっと改善していければいいと思います。
今回もありがとうございました！

(K)今回のブレイクアウトセッションでは、グループ全員が私にとって今まで話したことのない人
たちだったので、新鮮でした。クラスが違う人と話す機会はほぼないので、面白かったです。また、
今回から Bob の音声聞きやすくなっていったなと思いました。

250 人の中で指名される生徒の心理的プレッシャーは大きい。そのため、十分な練習を小グループ
内でさせた後、その報告をする、という形をとった。また、教室空間とは異なり、アイコンタクトも
なく突然指名されるため、指名されてから生徒が反応するまでにはかなりの時間がかかった。Zoom で
は、1 画面 25 人までしか表示されず、教員は 10 ページを状況に応じてスクロールしながら生徒の状
況を確認した。ただし、画面をオフにしている生徒も多くいて、その場合にはアイコンだけのため、
表情が読み取れなかった。

4. Zoom 授業を経て今後の授業に活かせること

オンライン授業の影響で、生徒は提出物の量が飛躍的に増えたことにより、「提出」についての心理
的なプレッシャーがあったことは生徒との対面授業を通して知ることができた。「提出しない」のでは
なく、「提出できない」生徒もいることを念頭に置かざるを得なかった。そこで、そのような状況で、
提出したこと自体を褒めることも重要である。そこを踏まえて、内容についてもコメントをしていく
ことで、授業と生徒との関係も構築できていくと感ずることができた。

授業を通して「生徒に言いたいことを言わせたい」という根本は変わらない。50 分間という与えら
れた時間を有効活用するためにできることは、次の 3 つである。

- ① 明確な指示
- ② 生徒の生活に根差した話題の選定
- ③ 早めのフィードバック

①については、明確な指示を出さなければ、生徒は何のための活動なのかを迷う。特に Activity の
10 分間の班内活動をさらに有益な時間にするためには、40 人のクラスで一人ひとり目が行き届くよう
な状態が望ましい。対面授業においては、何よりも人間関係の構築ができていれば、当たり障りのな
い会話から、もう一步踏み込んだ発話にもなっていくであろう。②については、これが準備に一番時
間がかかるのだが、学校と家の往復以外になかなか共通の生活圈を持つことのない生徒同士で、ALT
との対話を通して、共感する部分を探す作業である。③については、口頭であればその場で即時にコ
メントができるが、Form で提出されたデータの場合には、多少時間がかかる。ただし、文法の定着を

意図している場合には、以下のように対応した。

S-san's mother has been watching exercise video since a week ago. He don't know what his father is doing because his father not in his house right now. (生徒作品より一部抜粋)

“has been watching”に下線を引いて、“Just watched? Didn't she do any exercise?”という質問を入れて、生徒と教師のインタラクションのきっかけを与えた。“He don't know”という微細な誤りについては下線を引くだけにした。紙で書いたものならば、授業返却時での全体のフィードバックをするときのきっかけにもなるし、メールでの返却ならば、そこで返信をする生徒もでてくる。そして生徒が本音をのぞかせるのが、Formsでの提出時の最後の「感想」である。入学後に一度も顔を合わせたことのない生徒同士では、グループ内で話すことにストレスを感じる生徒もいた。一方、英語力の高い生徒に刺激を受ける生徒もいた。こちらの返信が早ければ、生徒も「ありがとうございます」等のコメントがあったり、教員自身への質問も来ることがある。一言でもリアクションが得られるのが救いであった。

対面授業で、生徒に文章を書かせる場合、従来通り紙面に書かせて提出をさせるが、長期休業中などの家庭でまとまった分量を書かせるときには、Formsでの提出も選択肢に入れられるようになった。フィードバックのしやすさと、データとしてファイルに容易に残せる。

『学習指導要領』の「英語表現 I」の目標にあげられているように、生徒は「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図りたい」と思っていると対面授業に入ってから取ったアンケートで分かった。そして「対面の方がワイワイしていて頭に入ってきやすい」のは、オンライン授業を体験したからこそ、対面授業の良さを教員だけではなく、生徒も実感したことが大きい。さらにそのアンケートによると、「何とか、与えられた環境で何とか英語を話そうと、意識して自分から話し始めたり、画面越しでは伝わりにくい、表情が見えないことの難しさが分かったので、学校では積極的に英語で相手に伝えたいと思った」という意見も目立った。普段話せない人と話せたことが嬉しいとする生徒もいる一方で、沈黙が辛い、だから、自分から話し始める大切さを知ったという生徒もいた。

最後に、「250人が一度にやる授業もあったよね、あれはあれで誰と同じ班になるかどうか分からないという楽しみがあったけど、あの10分間の使い方は本気で考えたよね、沈黙があんなに辛いとは思わなかった、あの時間内に話し終わった後の気まずい雰囲気・・・」と懐かしむように笑って過ごせる日が来ることを願う。

この実践は同じチームを組んで実践している浅見道明教諭、物井真一教諭、そしてALTのBob Juppe氏との協力があって成立しているものである。この場を借りて御礼申し上げます。

参考・引用文献

文部科学省 (1999). 『高等学校学習指導要領 (平成 21 年 12 月) 解説—外国語編英語編—』

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf (アクセス 2020,1.05)

Krashen, S. D. (1984). *The Input Hypothesis: Issues and implications*. New York :Longman.

Ⅲ コミュニケーション英語Ⅱでのオンラインによる取り組み 塩飽りさ

1. 授業について

「コミュニケーション英語Ⅱ」(3単位)は2名の教員が3クラスずつ担当しており、使用教科書、授業進度、定期考査は学年共通である。オンライン授業に関しても、教員間で相談、分担しながら共通の内容で進めた。なお、今年度の使用教科書は、*PRO-VISION English Communication II* (桐原書店)である。


2. オンライン課題の内容

クラスごとに Classroom を開設し、週1回の頻度で4月第2週～7月第4週の期間、全13回にわたり課題を配信した。課題自体はシンプルで、教科書本文をパートごとに読み、Comprehension Questions (教科書本文の下に掲載されている質問)に答えるというものである。毎回 Classroom の「課題」として、①教科書該当パートの本文 PDF ファイル、②該当パートの音声ファイル、③新出単語・熟語のリスト、④Comprehension Questions の Forms リンクの4つを配信した。開始当初は1週間につき2パートを課題としていたが、Zoom による授業を実施するにあたり、1パートずつにペースを落とした。また、各レッスンの最後には、章末問題と本文内容に関する英語でのコメントを課した。

課題へのフィードバックも Classroom を通じて各教員が行った。Comprehension Questions の解答として生徒が書いた英文を添削し、限定コメント欄(各生徒と教員のみ閲覧可)上で返却した。章末問題については、あらかじめ解答例を作成し、生徒が課題のフォームを送信した後に自動でフィードバックが届く設定にした。さらに、通常授業ができていない分これらのフィードバックだけでは不十分だったので、補足として本文の解説 PDF ファイルを課題期限の翌日に配信した。

Lesson 1 “The Freedom to Be Yourself” Part 1 フィードバック例


限定公開のコメント 2 件



Risa Shiwaku 4月18日

Q1. Because in Japan back then it was unusual for a woman to have her own career. →○
Q2. Because she leaved her children alone at home. →leaveの過去形はleft. それ以外はOK。
Q3. Believe in myself, without depending on someone else.
→内容はOK。本文はヤマザキさんの視点で書かれていますが、質問には客観的な視点で答えるので、Iやmyをsheやherに変える必要があります。また、本文中のyouは一般的な人を指すyouです。elseはタイプミスかな？
よって、She learned that you should believe in yourself without depending on someone else.

Good job! Keep it up :)

 4月18日

添削ありがとうございます。解説も拝見しました。

Comprehension Questions:
Q1. Why did Ms. Yamazaki's mother have a hard time?
Q2. Why did the neighbors criticize her mother?
Q3. What philosophy did she learn from her mother?

3. Zoom 授業の内容

週1回50分のZoom授業を5月第4週～7月第4週の期間、全9回にわたり、クラスごとに行った。学校全体としてZoom授業の環境が整った当初、教科内で実施するかどうかも含めて議論した。我々教員もまだ不慣れな状態で心配はあったが、まずはオンライン課題の補完としてやってみようということになった。個人的には、休校中の生徒同士のコミュニケーションの場が限られていたため、週1回でもクラスが顔を合わせ、一緒に英語を聴いたり話したりする時間が必要であると感じていた。また、担当している3クラスのうち2クラスは昨年度教えていなかったもので、通常授業のようにはいかないにしても、文字だけのやり取りよりは多少生徒を知る助けになるのではないかと考えた。

授業の主な内容は、①Warm-up、②教科書本文に関する補足、③教科書本文のトピックに関するやり取り・ディスカッション、④その日の授業およびその週の課題についてのコメント送信（チャット機能を使用）である。

通常の対面授業では、教科書レッスンのパートごとに以下の流れを大きな軸として進めている。

1. Oral Introduction（英語による本文の導入）
2. Reading Comprehension（本文の内容読解）
3. Explanation（本文の解説）
4. Reading Aloud（音読練習）
5. Summary Writing（要約のライティング）
6. Retelling（キーワードや写真をヒントに、本文内容を再構成して英語で話す活動）

週1回のZoom授業でこれらすべてを扱うことは当然不可能である。Reading Comprehensionの部分はオンライン課題として生徒個人に行わせており、Explanationは解説のPDFファイルで補えると考え、Zoom授業では、ディスカッションや背景知識のインプット、発音練習など、コミュニケーションと音声を重視することにした。

①Warm-up

生徒の希望が多かったため、Warm-upとして2回目の授業から歌を取り入れた。Zoom上でうまくできるのか不安だったが、教員側がYouTube動画の音声と歌詞のスライドを共有しながら、生徒側はマイクをオフにした状態で、なんとか歌うことができた。マイクがオフなのでクラスメイトの声は聴こえないのだが、生徒は英語を口に出す機会や新しい曲を知るきっかけを求めているようだ。曲は、少しでも気持ちが明るくなってほしいという願いを込めて、アップテンポのものやポジティブな歌詞のもの（Panic! at the Discoの*High Hopes*、Shawn Mendesの*If I Can't Have You*、ミュージカル映画『アニー』の*Tomorrow*）を選んだ。

また、毎回ではなかったものの、Small Talkの時間も設けた。トピックは、「自粛期間中の過ごし方」、「自粛期間が明けたら挑戦したいこと」のほか、そのときに話題になっていたものを取り上げた。例

えば、さまざまなアーティストが SNS 上でアマビエの絵をシェアしていたときには、アマビエの絵を見せながら、“Do you know this imaginary creature? What is its name? Do you know the legend about this creature? Why has it attracted so much attention?” などの問いを与えて、ブレイクアウトルーム機能を使い、グループごとに情報交換をさせた。ちょうど Lesson 1 の題材になっていたヤマザキマリさんもアマビエのイラストをシェアしていたので生徒は概ね興味を持って取り組んでくれたようだが、その存在を知らないメンバーが集まったグループは話し合いがしづらかったことが後にわかった。Zoom では通常授業のように机間巡視して指導ができないので、問いの与え方にはより気を配らねばならないと反省した。

生徒のコメントより：

I enjoyed singing! I want to sing English songs more! / *High Hopes* is one of my favorite songs! / ミュートでも歌を歌えたのは良かったです。/ 歌を流していても途切れ途切れだったりしてよく聞けなかった。/ 今日のアマビエという生き物に関するトークが良かったです。/ アマビエは写真は見たことがあったが詳しくは知らなかった。/ I thought everyone knows Amabie, but many people didn't know her (?) yet. / アマビエの話はグループで誰も知らなかったので話し合いになりませんでした (笑)

②教科書本文に関する補足

その週または前週の課題のパートについて、短めの **Oral Introduction** を行った。生徒によって課題に取り組むタイミングが異なったため、本文を読む前に授業を受けた生徒もいれば、課題を終えてから授業を受けた生徒もいた。したがって、**Oral Introduction** が必ずしも本文の導入とはなっていなかったが、背景知識の提供および **Keywords** や **Key Sentences** の発音・音読練習の役割として割り切った。

対面授業と比べて難しかったのが、生徒のリアクションや理解度の把握である。カメラをオフにしている生徒もいるほか、スライド共有時は表示される参加者のウインドウがさらに限定されてしまう。ほとんど生徒の顔が見えない中、一人で話し続けるというのは正直つらいものがあった。また、**Keywords** と **Key Sentences** の発音・音読練習は、歌と同様に生徒側はマイクをオフにした状態で行ったので、生徒がこちらのスピードについてきているのか、正しい発音ができているのかの確認はできなかった。しかし、発音・音読練習は自分一人で行うにはハードルが高かったのか、一定のニーズはあったようである。

生徒のコメントより：

前回リクエストした音読などができてとても良かったです。英語を普通の授業のように話すことが出来るのはとても嬉しいです。/ みんなで音読はした方がいい気がします。/ 久しぶりに英文を音読しました。懐かしかったです。/ 休みで口を全く動かしていないので発音する授業はとてもいいと思いました。/ 英語を発音する機会が持てるのはうれしいです。/ ミュートではあるが、発音練習ができるのはうれしい！

Zoom による制限で苦勞した面が多々あった一方、生徒の授業参加を促すのに役立つ機能もある。「投票機能」がその 1 つである。教員側が用意した質問に一人一人がアンケートのような形で答え、その場で全体の結果を共有することができる。背景知識のインプットとしてのクイズや文法問題の理解度チェックに使用し、利便性を実感した。

Lesson 3 “Mount Fuji—The Eternal Mountain”の導入で行ったクイズの例：

True or False Quiz about Mt. Fuji

1. The climbing season for Mt. Fuji is from early May to early October.
2. Mt. Fuji has been and will be closed during the 2020 season because of the coronavirus pandemic.
3. In 2013, Mt. Fuji was added to the World Heritage List as a Natural Heritage Site.
4. In ancient times, people believed that gods lived within Mt. Fuji and that the mountain erupted when the gods were angry.
5. During the Edo period, it took about five days to travel to Mt. Fuji from Edo and back.
6. It was only after 1872 (Meiji 5) that women were allowed to climb Mt. Fuji.

実際の投票結果共有画面



生徒のコメントより：

クイズ、意外と知らないこともあって面白かったです。/ 投票形式のクイズが面白かった。/ 富士山のクイズが難しかった。もっと富士山について知りたいと思った。

③教科書本文のトピックに関するやり取り・ディスカッション

通常の授業ではアウトプット活動として **Retelling** を行っているが、週 1 回の Zoom 授業では **Retelling** につなげるための音読の時間が十分に取れなかったため、毎授業 3~4 人のグループでのディスカッションを、ブレイクアウトルーム機能を使って 1~2 回行うことにした。そのパートで学んだ内容の成果をアウトプットするというよりは、お互いに情報や意見を共有することにより、トピックのスキーマを活性化させて各自が課題に取り組みやすくする目的のものが中心となった。

例えば、Lesson 4 “Handwriting in the Digital Age” は手書きとタイピングを対比しながら手書きの良さを述べているエッセイだ。本文の導入として、生徒に以下の質問を与えてグループ内で答えを共有してもらった。本文の内容を自分の体験と関連付けて考えるとともに、友人との意見交換を通して異なる視点にも触れ、より深い理解につなげてほしいという狙いだ。

Question: Which do you prefer, handwriting or typing? Discuss each of the following situations.

Taking notes / Organizing your ideas / Writing a paper for your class / Writing a birthday message to one of your friends

グループディスカッションにより課題がどの程度取り組みやすくなったか、また、生徒の英語力自体に変化があったのかどうかまでは調査できていないが、友人とのコミュニケーションが不足していた生徒からはディスカッションできて良かったという感想が目立った。一方で、ブレイクアウトルームでのディスカッションは誰が会話をリードするのか決めづらく、スムーズにいかないという意見も聞かれた。その都度こちらで司会者を指定するようにしたところ(例:“Today’s facilitator is the person who belongs to the club that has the most members.”)少し改善は見られたものの、あまり普段話さないメンバーが集まった場合などは英語で話すことに気まずさもあったようだ。教員側として難しかったのは、各グループの様子を全体的に見渡せないことだ。時間内にいくつかのグループを見に行ったが、教室での机間巡視のようにはいかないので、生徒を緊張させてしまったかもしれない。逆に、何かをちょっと聞きたいときに教員をすぐに呼ぶことができずに困ったと言っている生徒もいた。

生徒のコメントより：

友達と会えなくて会話不足だったので、ブレイクアウトで久しぶりに話せて楽しかったです。/ グループディスカッションがあったのが普通の授業みたいで楽しかったです。/ 英語で会話するという機会がこの休みの間全くなかったので、今日の授業でディスカッションすることができてよかったと思います。/ ブレイクアウトで誰も話さないときの気まずさがやばいです。/ 先生もいないので困ったら日本語に頼ってしまった。

グループディスカッションの後、全員がメインルームに戻った状態で、数名の生徒を指名して口頭でやり取りすることも行った。実際、Zoom による授業の難しさを最も感じたのがこの場面だった。対面でのやり取りと違いタイムラグがあるため、テンポよく会話が進まない。また、たとえカメラがオンであっても表情が見えにくく、相手の意図が掴みにくい。さらに、一度も対面で授業ができないまま Zoom で顔を合わせることになったので、英語力も含めて生徒一人一人のことがほとんどわからない状況である。生徒がリアクションに時間がかかっているのが、通信による問題なのか、質問されている内容がわからなかったからなのか、言いたいことがうまく英語で表現できないのか、判断ができず、教室でのやり取りならばすぐに終わるような内容でも数分間かかってしまうケースがあった。このような Zoom ならではの難しさを理解したうえで、教室と同じようにやり取りをすることを時には諦めなければならないと学んだ。

ディスカッションした内容やアイデアの共有という意味では、スピーキングにこだわらなければ、本紀要の「コミュニケーション英語Ⅰ」の報告にもあるように、チャット機能が有効だろう。実際に何回か実施してみたところ、時間が効率的に使え、同時に多くの意見を読むことができるほか、テキスト

トデータが残るので授業後の共有もしやすいという利点があった。文字での意見共有は心的負担が少ないようで、教室ではあまり自分から発言しない生徒も、チャット機能を使って良いアイデアをたくさん出してくれた。ここでは、Lesson 4 “Handwriting in the Digital Age”の授業で与えた別の問いと、生徒がチャットにより共有したアイデアの例をいくつか挙げたい。

普段の授業にも言えることではあるが、オンラインでのやり取りやディスカッションに関しては特に、どのような問いを与え、どのような方法で意見共有するかをしっかりと吟味し、授業計画を立てる必要性があると実感した次第である。

Question: What are advantages of handwriting?

Students' answers (原文ママ) :

We can write the sentences freely (for example, from up to down, or left to write). / I can memorize things better by handwriting. / It does not make our eyes tired. / Handwriting can prove writer. / Able to show personality. / You don't forget kanji. / It is easy to draw a diagram.

Question: What are advantages of typing / using a computer?

Students' answers (原文ママ) :

It is less tiring my hand than handwriting. / It's easy to copy and paste. / It is easy to share with someone. / We can type longer sentence in fewer time. / We can put more information because the font is often smaller than handwriting. / The soft correct my error. / School report looks organized even though you have dirty hand writing.

4. オンライン授業を経て、今後に活かせること

突然の休校が決まってからの試行錯誤のオンライン授業は、生徒にとっても教員にとっても苦しい経験だった。制限がありながらも対面授業ができていた今、同じ時間に同じ場所にいられ、お互いの顔を見ながら自由にコミュニケーションできることのありがたみを感じている。しかし、この原稿を執筆している現在（2021年1月）、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は収まるどころか悪化しており、オンライン授業が再開する可能性も否定できない。これからどのような形態で授業が行われるにせよ、ここで今回のオンライン授業を経て学んだこと、今後に活かせることや検討すべき課題を整理しておく必要がある。

まず、収穫として挙げられるのは、制限はあっても英語でのコミュニケーションはオンラインである程度可能だとわかったことだ。特に、Zoomを使えば双方向のやり取りができ、通常に近い流れで授業を進められる。また、生徒が授業に求めていること、自宅では取り組みにくく感じていることの確認もできた。前述の生徒のコメントからもわかるように、スピーキング、友人との英語によるコミュニケーションや学び合いは授業でこそ実現できる活動である。加えて、発音や音読など声に出して英

語を読む練習に対する支援を望む声も多い。教員がファシリテーターとしてこれらの機会を積極的に作っていくことの重要性を再認識した。これは、対面かオンラインかにかかわらず常に意識していきたい。

以上の学びがあった一方で、課題も見つかった。個人的に今後最も検討すべきであると感じているのが、英語を苦手とする生徒のケアだ。通常授業では、教科書本文のリーディングは授業内に全体で時間を取っており、重要な文法事項や語彙の説明も生徒の理解を確認しながら行っている。今回のオンライン課題では、この一連の活動を個人に任せてしまったため、自宅で一人取り組むことを困難に感じた生徒が少なくなかった。その結果、課題を期限内に提出できないケースが回を重ねるにつれ多く見られた。また、Zoom 授業の問題としては、支援の得にくさが挙げられる。教室であれば、わからないことがあっても近くの友人に聞いたり教員に声を掛けたりして確認できるが、Zoom ではそれがほぼ不可能だ。実際、ある生徒からは「隣の人にパッと聞けないのがつらいです。わからないので当ててください。」という切実なコメントがあった。この先またオンライン授業再開となった場合、課題の量と取り組みやすさを考慮しつつ、補習や自由に質問できる場を授業外にも設けるなどして、手厚くサポートする必要があるだろう。

その他に意識して考えていきたいのは、生徒のモチベーションや自律的な学びを促す工夫だ。オンライン課題と Zoom による授業をある程度パターン化しながらも、扱っているトピックや時事問題に関するオーセンティックな教材を積極的に紹介したり、Zoom 以外でもお互いに学び合える方法を模索したりするなどして、改善を試みたい。ただし、オンライン授業の準備や課題のフィードバックには多大な時間と労力を要することも今回身を以て経験した。心身の健康を第一に、生徒にとっても教員にとっても持続可能な方法で行うという視点も忘れてはならないだろう。

IV Zoom の機能を最大限活かした「普段の授業と変わらぬ授業」の実践 物井真一

1. 普段の対面授業の基本的な流れの確認

本校では伝統的にオーラルイントロダクションから始まる、インプット、アウトプット両者を重視（参照、村野井、2006）した授業を実践している。授業展開を簡単に説明すると、以下の通りである。

1. Oral Introduction (Input)
2. Explanation (Input)
3. Reading Aloud (Intake)
4. Retelling/Oral Presentation/Writing Task (Output)

2020 年度に担当した 3 年生は、1、2 年次の 2 年間、基本的にこの流れに沿った授業を受けてきた。つまり、授業展開を説明しなくても、生徒たちは以下のことを心得ていることになる。英語の授業では、まずは英語による本文の大まかな導入があり、そこで触れられなかった箇所の説明が行われ、内容を理解する。次に、音読を通して単語レベルから本文全体にわたって意味、形、音声の確認をする。最後に、これまでの学習を踏まえ、まとめの活動として何らかの Output（産出）活動を行う。その活動は、個人またはグループで行われ、本文の Retelling からトピックに対する自分なりの意見や考えの Oral Presentation または Writing である。

2. オンライン授業の基本方針

5 月 GW 明けから始まった Zoom を使ったオンライン授業では、基本的に、これまで慣れ親しんだ Oral Introduction から始まる、Input から Output の流れの授業をできる限り行うこととした。この方針は、英語教育研究者であり、特に学習動機を専門分野とする Dörnyei の考えに沿う。

Dörnyei らは（Dörnyei, Henry, & Muir, 2016）、語学教師は、学習者の学習動機を維持することに最大限に配慮する必要があると述べている。その主張の中で、以下の 2 点が今回のオンライン授業の在り方を肯定してくれると考えられる。

2-1 学習活動のルーティン化

日々の繰り返しの中で、次に何をするのが明確であれば、学習者は過度な負担を感じることなく活動に取り組むことができる、と Dörnyei は述べている。オンライン授業という非日常の中であっても、授業展開が普段の対面授業の流れと同じであれば、生徒たちは普段通りの気持ちで臨むことができるのではないだろうか。学習者が、活動の展開が予想できるということは、次に何が来るのかという“不安”を軽減することができるという意味でも大切である。今振り返ってみれば、生徒たちは、自宅待機となり不安を抱える中で、慣れ親しんだ授業展開によって、多少なりとも“安心感”をもってオンライン授業に取り組めたのではないだろうか。

2-2 明確な学習目標

Dörnyei らは学習目標も学習動機を維持する上で欠かすことができないと述べている。目標が明確であれば、学習者はその目標に向かって継続して各課題に取り組む気持ちを維持することができる。オ

オンライン授業であっても、普段の対面授業のように、生徒たちが各レッスンのゴールとして何らかの Output 活動があるとわかれば、発表までの授業内の各活動（音読など）の意味を理解して取り組むことができるのではないだろうか。

3. Zoom 授業の実践紹介

Zoom を活用したオンライン授業の期間、教科書の 2 レッスン分を行った。ここでは、オンライン授業で扱った最初のレッスンの実践を紹介する。使用教科書は、*UNICORN English Communication III NEW EDITION*（文英堂）、扱った箇所は Lesson 2 Ideas Aren't Cheap—They're Free。出典は *inGenius: A Crash Course on Creativity*（Tina Seelig, 2012）。著書はアメリカの大学で企業育成コースを担当する教授であり、本書を通して、創造性を発揮することはいついかなる場面でも可能である、と述べている。以下は教科書本文の一部抜粋である。

1▶ Until recently, students applying to All Souls College at Oxford University took a “one-word exam.” The Essay, as it was called, was both anticipated and feared by applicants. They each turned over a piece of paper at the same time to reveal a single word. The word might have been “innocence” or “miracles” or “water” or “provocative.” Their challenge was to write an essay in three hours inspired by that single word. There were no right answers to this exam. However, each applicant’s response provided insights into the student’s wealth of knowledge and ability to connect creative ideas together well. This challenge reinforces the fact that everything—every single word—provides an opportunity to leverage what you know to stretch your imagination.

2▶ For so many of us, this type of creativity hasn’t been developed. We don’t look at everything in our environment as an opportunity for ingenuity. In fact, creativity should be an imperative. Creativity allows you to thrive in an ever changing world and opens a universe of possibilities. With enhanced creativity, you see potential instead of problems, you see opportunities instead of obstacles, and you see a chance to create breakthrough solutions instead of challenges.

以下省略

3-1 Oral Introduction (Input)

Zoom の「画面共有」機能を用いて、PowerPoint を活用しながら行った。普段の授業でも PowerPoint のスライドを活用しているが、オンライン授業でも、Zoom で画面共有しながら、簡単な内容の導入を行うことが可能であった。教師から一方的に話することなく、教師と生徒間で英語による「やり取り」を交えながら Oral Introduction を行うことが可能であった。

1	Printing Press	Johannes Gutenberg	allowed literacy to greatly expand
2	Electric Light	Thomas Edison	powered countless social changes
3			
4	Telephone	Alexander Graham Bell	spread communication across wide areas
5			

Oral Introduction

3-2 Explanation (Input)

本文の説明も、PowerPoint のスライドを共有することで可能となった。前述の通り、すでにオンデマンド形式で、本文の解説動画を配信してあったが、改めて授業の場でも、語彙を中心にクラス全体で確認した。本文理解は、その後の音読活動への重要な橋渡しである。音読活動は意味を理解してこそ行われなければならない。普段の授業では、授業全体での解説の占める時間は決して長くはないが、それでも生徒にとっては大切な授業の一部であり、PowerPoint のスライドを活用することでオンライン上でも容易に行うことができた。

3-3 Reading Aloud (Intake)

音読はInput から Output への大切な橋渡し活動である。普段の授業でも、音読を通して内容理解(Input)の確認し、その先に発表活動(Output)へとつながっていく。普段は教科書と共に、別途プリントを配布し、負荷のある音読活動として Blank Reading 等を行っている。オンライン授業でプリントを利用するためには、生徒自身が授業前に印刷する必要がある。しかし、各生徒の環境により授業で使う資料の準備に差があってはならない。また、音読を行うにしても、週1回のオンライン授業では音読にあてる時間にも限りがある。よって、オンライン授業では、音読で取り扱う箇所を筆者のメッセージを読み取れるパラグラフに限定し、Blank Reading 版と Simultaneous Translation (同時通訳) 版のPowerPoint を用意した。これらを画面共有しながら、クラス全体、個人練習、個人指名の順で音読活動を行った。

- We don't look at everything in our environment as an opportunity for in [redacted].
- In fact, creativity should be an im [redacted].
- Creativity allows you to th [redacted] in an ever changing world and opens a un [redacted] of possibilities.
 - With en [redacted] creativity, you see pc [redacted] instead of problems, you see opportunities instead of ob [redacted]s, and you see a chance to create bre [redacted]gh solutions instead of challenges.

Blank Reading

- We don't look at everything in our environment as an opportunity for in創造性.
- In fact, creativity should be an im不可欠なもの.
- Creativity allows you to th成功するin an ever changing world and opens a un世界of possibilities.
 - With en育まれたcreativity, you see po可能性instead of problems, you see opportunities instead of ob障害, and you see a chance to create br打開 solutions instead of challenges.


Simultaneous Translation

3-4 Retelling/Presentation/Writing Task (Output)

音読後の何らかの Output 活動が続くことは、本校で英語の授業を2年間受けてきた3年生にとっては、当たり前な普段の授業の流れである。特に、自分の意見や調べたことを述べる Oral Presentation は、クラスメイトの発表を聞くことが新しい発見にもつながるので、生徒にとっては楽しい活動でもある。

このレッスンでの Output 活動では、同僚のアイデアを参考にし、本レッスンの著者が実際の授業で大学生に課した発表活動を行った。発表課題は以下の通りである。従来の name tag は字が小さくて読みにくく、時にはそれがお腹のあたりにぶら下がっていて格好がわるい。よって、著者は name tag にとって代わる新たな身分証を考えだす必要があるとし、大学生に代替案を考案させ、その発表を行わせた。同様の課題を 3 年生にも課し、独自の案の発表を行わせた。ただし、場面を学校に限定し、どの先生も喜んで (?) 付けるような name tag にとって代わるものを提案するようにと指示した。本課題を以下のように、Power Point の画面共有で提示した。

⑤Retelling / Presentation / Writing Task



1. On the first day of class, we start with a very simple challenge: **redesigning a name tag**. I tell the students that I don't like name tags at all. **The text is too small to read. They don't include the information I want to know. And they're often hanging around the wearer's belt buckle, which is really awkward.** The students laugh when they realize that they too have been frustrated by the same problems.

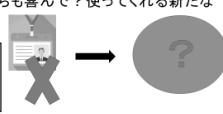
Oral Presentation - 課題の提示①

⑤Retelling / Presentation / Writing Task

- Task 2:ネームタグにとって代わる物を提案(英語でプレゼン)

附属高校では、ネームタグをつけない先生がいる。その理由は、授業の邪魔、かっこ悪い、読みにくい、等々。しかし、生徒、保護者、外部からの訪問者にとっては、誰が先生かわからなくて困る、という声もしばしば聞かれる。そこで、従来のネームタグにとって代わる、だれにとってもこの人が先生だとわかる、かつすべての先生たちも喜んで？使ってくれる新たな「身分証」となるものを考えだす。

- 授業中に準備時間(10分+5分)
- PowerPoint(Google Slide)
- White Board(Zoom機能)

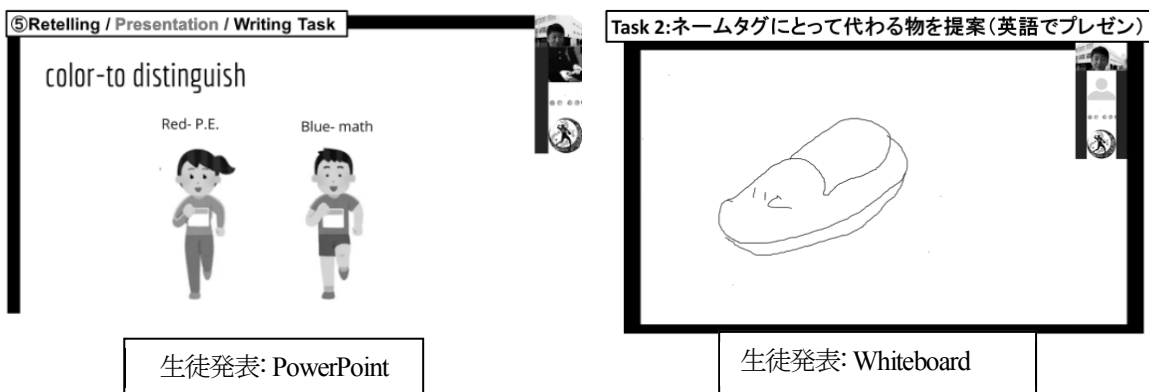


Oral Presentation - 課題の提示②

発表形態はグループとし、クラス内で全 6 グループ (各グループ 6 人程度) とし、グループメンバーは私が出席率のバランスを考えて指定した。発表準備は、Breakout Session による打ち合わせを授業時間内に 10 分間ほど与えた。普段の授業の発表活動では、メンバーの人数は多くても 4 人程度であるが、全てがオンライン上となり、アクシデント (だれも準備しない、等) を考慮して、6 人程度とした。準備時間については、生徒は与えられた時間と条件で最大限の力を発揮するので、普段の授業通り授業内の 10 分 (発表前の授業内) のみとした。発表当日は、普段であれば、休み時間に行うであろう準備を想定して、授業の最初の 5 分を準備時間として Breakout Session に当てた。

発表方法については、PowerPoint、または、Zoom の Whiteboard 機能が使用可能であると説明した。Whiteboard とは、Zoom を通して話をしながら、画面共有をしながら文章や絵を描き込むことができる機能である。対面の授業であれば、話をしながら、その場で黒板に写真を貼ったり、絵を描いたりするようなことが、Whiteboard で可能となる。PowerPoint ほど準備されていない状態で発表をすることができる機能ともいえる。

今回の発表では、PowerPoint を用いたグループ、Whiteboard を用いたグループの両方があった。次頁にそれぞれの発表時の画像を例として示す。PowerPoint を用いたグループは、例えば、name tag の代替案として、胸元に教科名と教員名が印刷された T シャツを紹介した。Whiteboard を用いたグループは、名前の印字されたシューズを紹介した。洋服には好みがあるので、また季節によって衣服は左右されてしまうので、どの季節でも共通する靴に着目した。シューズであれば、コロナで外出が制限されていても、通信販売を通じて簡単に手に入れることができるのもその理由であった。一人の生徒が英語で説明しながら、別の生徒が Whiteboard に絵をかき、グループとして Oral Presentation を行うことができた。



4. Zoom 授業に対する生徒からの感想

対面授業再開後、11月に、研究大会の本発表への参考資料として、Zoomを使ったオンライン授業について、無記名によるアンケートを行った。(n=77) 質問項目と回答の一部を以下に紹介する。印象に残った活動として、レッスン最後の Oral Presentation を選んだ生徒が多かった。生徒がそれぞれの自宅から参加しながらも、普段の授業のようにグループ発表をできたことは、驚きでもあり、喜びでもあったのではないだろうか。

Q1. 自分にとってよかったこと

- ・手元で分からないことを確認しながら授業を受けられた
- ・皆で話せて嬉しかった
- ・書いたものを共有できること
- ・未来を感じた
- ・思ったよりしっかり授業ができて良かった

Q2. 自分にとって苦しかったこと

- ・教室だと近くの友達に聞くことができたことができなかった
- ・意思の伝達の難しさ
- ・相手の顔が見えないので話しづらい
- ・グループワークはやりにくいと感じた
- ・学校では面と向かって話すような相手とも Zoom を介して話すのは苦痛だった
- ・いつ指名されるかわからない緊張感

Q3. 印象的だった活動 (導入、語彙・内容解説、音読、リテリング、グループ発表等)

- ・授業の最初の歌 (注: 毎時間、気持ちが前向きになるような英語の歌を Warm Up として行った。例「You Make Me Happy」 Lindsey Ray)
- ・ミュートしながらの音読
- ・グループワークがやりやすかった

- ・パワーポイントを自分でつくって発表できたのは良かった
- ・ホワイトボードに絵を書いて発表したこと
- ・班の中でコンタクトを取りづらく難しいこともあったが、Zoom の機能をしっかり活かせていて、オンラインでもグループ発表ができるんだなと思った。
- ・Activities using Whiteboard
- ・グループワークとかできるんだ、と思った（しんどかったけれど）
- ・リテリングが少なかった
- ・気軽な発表をしたらよいと思う

5. オンライン授業を振り返って

こうして振り返ってみると、非常事態であるからこそ、日常に近い時間を過ごせることの大切さを改めて痛感する。苦しい自宅待機の期間ながらも、Zoom 機能を駆使して出来るだけ普段に近い授業を目指したオンライン授業は、生徒たちにはほんのわずかでも安心して学習できる機会であったと願いたい。Dörnyei が主張するように、普段慣れ親しんだ授業展開をオンライン授業でも維持することは学習者にとって大切である。こうすることで、授業者である私にとっても、次の授業展開を考えやすくなり、授業を頑張ろう、という前向きな気持ちを抱くことができたのではないかと思える。

レッスンの最終目標として、Oral Presentation を設定したが、そこに向かって、生徒たちはこちらが驚くほど頑張って取り組んでくれた。そして Oral Presentation を一番楽しんだのは、もしかすると私だったかもしれない。それぞれのグループは、いつものように様々なアイデアを紹介してくれた。そしてそれを聞くことこそ、レッスンを頑張ってきた最後のご褒美のようなものであり、英語の授業の醍醐味でもある。Oral Presentation に限らず、生徒たちは、授業の各活動を、対面授業時と同様に一杯取り組んでくれた。普段の授業同様にオンライン授業を進めていけた最大の理由は、生徒たちの努力のおかげである。そして、生徒たちの努力を引き出すことが教師の最大の役割であり、緊急時になればなるほど、普段の授業にどのようなことを行ってきたか、そしてそれをどの指導手順をどの程度再現できるのか、が重要となる。

生徒、教師ともに、再びオンライン授業に戻りたいとは思わない。が、今回の経験を通してどのような活動が可能であるのかがはっきりと分かったので、仮にオンライン授業に戻るようなことがあったとしても、その時間を最大限活かした授業ができるのではないだろうかと思う。

参考文献

- 村野井仁 (2006). 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』. 東京: 大修館書店.
- Dörnyei, Z., Henry, A., & Muir, C. (2016). *Motivational Currents in Language Learning: Frameworks for Focused Interventions*. New York: Routledge.

V Zoom を用いた英語ディスカッションの授業 矢田理世

1. 授業について

学校設定科目の「オーラルプレゼンテーション (以降 O.P.)」は、英語科で唯一の選択科目である。例年、海外生活経験のある生徒や留学から戻った生徒、海外での経験はないけれど英語力をもっと高めたいと願う生徒が集まるクラスである。考査は行わず、テキストもない。2 時間の授業を全て英語で行うことだけを条件に、年間約 50 時間の授業のシラバスは生徒の希望を聞きながら柔軟に決めている。2020 年度の選択者は 11 名、私がこの授業を担当して 3 年目である。本稿では、Zoom 授業を含めた 2020 年度の O.P. の授業実践について報告し、さらに今後応用できうる点についてまとめる。

2. Zoom 授業に至るまで

O.P. の授業では、何よりも英語を話すことを一番の目的としている。例年、この授業を選ぶ生徒たちは向上心が高く好奇心旺盛、そして相対的に高い英語力を持っている。4 月初旬、新年度開始を前にして、今年度の授業開始をどうすべきか悩んだ。しばらく状況が見通せるまで授業を行わない、あるいは Classroom で何らかの課題を出してお茶を濁すと言う選択肢もあったが、この程度で O.P. の生徒たちが満足するわけがないと考えた。彼らのモチベーションを下げないことを最優先に、無茶を承知で、初回の授業 (4 月 13 日) から Zoom というものを使って授業を始めることにした。Classroom のストリームにそれぞれが自己紹介を載せ、お互いに読んでくれることとした。家庭の協力を得て、Zoom を 1 時間使える環境設定を整えるよう伝えると同時に、翌週からの参加でも構わないことも添えた。初回授業の 3 日前に、私の自己紹介ビデオを配信した。担当するのは私です、こんな英語を話します、リラックスして参加して下さい、楽しみにしています、と言うメッセージを伝える意図であった。

3. Zoom 授業の実際

初回の予定した時間には全員が揃い、6 月の教室での授業実施まで、計 8 回 Zoom 授業を行った。各回のトピックと時間は以下の通り。

1. [4/13] 自己紹介 [60 分]
 2. [4/20] Quarantine (隔離) 生活どうしてる? [70 分]
 3. [4/27] 夢の卒業旅行プラン *ブレイクアウトルーム利用開始 [80 分]
 4. [5/11] オンライン授業の情報交換と教師への提言 [100 分]
 5. [5/18] Quarantine 終わったら一番にしたいこと [100 分]
 6. [5/25] 最近の happy news / 文化祭演劇プロジェクト [100 分]
 7. [6/1] 文化祭演劇プロジェクト [110 分~]
 8. [6/8] 個人プレゼンテーション (1) [110 分]
- 翌週 (6/15) より教室で授業実施。

Zoom 授業の流れは、毎回 “What’s new?” から始めた。まずは私が、学校周辺の様子や家庭の近況を紹介し、続いて “Who’s next?” と声がけをした。その後、事前に持ち寄った中から今日のトピックを話し合いで選び、準備が出来た生徒から話を始める。主に私が交通整理をしながらディスカッションを進めていく形態だったが、徐々にコツをつかんで、スムーズに発言が続くようになった。Zoom 授業は、各家庭の通信状況を心配して 1 時間から始めたが、ブレイクアウトを取り入れてから生徒たちは更に活発に話すようになり、2 時間以内で終わることを毎回の目標にして予定を立てていた。



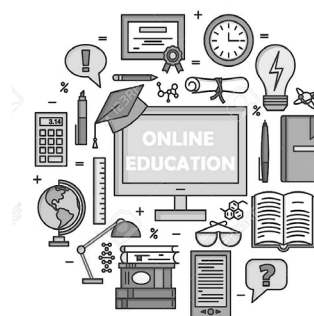
4. Zoom 授業での課題とフィードバック

この授業唯一の提出物として毎週「ジャーナル」を課している。振り返りを自由に書く日記のようなものだ。昨年度までは、ノートで提出されたものに私がコメントを書き込むことを繰り返していたが、今年はこれを全て Forms で行った。生徒たちの文章を抜粋してまとめたものを 1 枚のプリントにし、PDF にして Classroom で配信した。提出の後、個別のフィードバックは行わなかった。私自身が担当する他の 2 科目の提出物の処理で充分時間を奪われていたため、コメントを返す代わりに次回授業時に「画面共有」で映して適宜紹介した。以下は、ジャーナル第 4 回の抜粋である。

2020 OP (digital version) no.4 5/11→5/18

1. Quotes from your journals

- The topic was interesting. And there were many good ideas about the new type of classes. We talked about what we “want” a little too long. We should have think more about what we “can” do at this point. / And at the end of the lesson I said I wanted to play with classmates. I asked them what do they think about the idea in LINE. They also wanted to do it. I’m so excited about this new attempt! [H [REDACTED] a]
- This topic is so suitable for us. At the group session, we could talk and think about it more smoothly than last week’s topic, I think. And I also got new information and way of thinking. For example, about art, experiments of chemistry and physics and math. I have no opinions for that because I don’t get these classes. It was good for me to know the situation of these classes. [[REDACTED] i]
- our proposal was mainly about three things. Lecture and assignments, virtual classes on zoom(or google meet), and discussion by using text chat. / I’m not sure what the discussion topic will be next, but one thing is obvious that we OP students are getting so used to the class and English conversation and discussion. I’m looking forward to the next time. [[REDACTED]]



5. 学校再開後

6月中旬、外国語科の他の科目に先んじて、O.P.は対面授業を開始することができた。2時間連続の授業では、1時間目にウォームアップとしてゲームを行い、その後トピック別にグループに分かれて small discussion 等の短い活動を行った。2時間目はプレゼンやディベートなど時間がかかるものに充てた。対面授業開始から学年末まで17回の授業内容は以下の通り。

6～7月 プレゼンテーション(1) : What I want to tell you.

8～9月 プレゼンテーション(2) : The speech movie I recommend.

TED Talks, *The Great Dictator*, The declaration of war by F. Roosevelt, etc.

10～11月 ディベート

言語を統一することの是非、きのこの山 vs. たけのこの里、漢文の授業 vs. 中国語会話の授業、紙の教科書 vs. デジタル教科書

12月 授業振り返りスピーチ : 自分自身の成長、クラス全体へコメント、次年度へ提案

6. 生徒からの振り返り

11月～12月にかけて、授業の振り返りの一環として、Zoom 授業について生徒たちに自由に話したり書いてもらった。そこで出てきた意見は、以下の通りである。

この授業ならオンラインで充分いけた / 休校中一番充実していた授業 / みんなに会えて英語が話せて、週1回のオアシス的な存在だった / 早い段階から Zoom 授業を始めてくれたことに感謝している / スピーキングの良い練習になった / Zoom だと発言するタイミングがつかみにくい / Zoom は声がかぶさると聞こえなくなる / やっぱり教室の方がずっと楽しい

概ね好意的な意見が多かった一方で、Zoom 授業の限界も認識していた。このためか、学校開始後は、教室でお互いの顔を見ながら話ができることを、普段以上に喜んでいたように感じられた。

7. Zoom 授業を経て今後活かせること

Zoom 授業のあとに対面授業を経て年間の授業を終えた後、今後の授業に活かせることとして、nonverbal communication (ノンバーバルコミュニケーション・身ぶりなど言葉を使わないコミュニケーション) のもつ役割と、生徒の主体性の2点に関して考察する。

7-1 Nonverbal communication の重要性

Zoom 授業では、有意義な時間を過ごそうと、できることを見出しながらお互いに精一杯取り組んだ自負がある。一方で、教室で対面授業が始まると、やはり教室だからできることが明確になってきた。その筆頭が、nonverbal communication、言葉を使わないコミュニケーションである。

第一に、あいづちの打ち方をあげる。生徒同士がお互いに打ち解けるにつれ、もっと積極的に反応したいのにそれができないもどかしさがあった。Zoom では声がかぶせることができないため、聞く側は微笑んだりうなずく程度の反応しかできず、それが話す側に気づかれないことも多い。当の話す側

も、自分の発言がクラスメイトにどのように受け止められているのかわからないと感じていた。教室の授業に移った後は、「それ、わかるー！」とか「今の話おもしろかった！」などというメッセージを、笑い声や身振りで伝えることができ、話す側も自信を持てるようになった。授業の振り返り時に「自分が英語で話したことに真摯に耳を傾けて、前向きに反応してくれたことが一番嬉しかったし、自信につながった」と話した生徒が複数いた。

身振り・手振りなどのジェスチャーも Zoom 授業で十分に活用できなかったもののひとつである。ジェスチャーは情報の伝達に必須ではないが、印象的に伝える役割は持っている。O.P.の授業でも、その場で考えたことを英語で自由に話せるような能力の高い生徒ほど、自然とジェスチャーを伴って話すことが多い。そして、感情のこもった体の動きが伴うと、自然と話に引き込まれることを授業中たびたび体験した。授業を振り返ってエピソードを出し合っていた際、「**のジェスチャーの再現」と、ものまねが始まった。ボールをなでるような動きをする生徒や、胸の前で拍手を繰り返す生徒、両手の指をくねらせる生徒などそれぞれが特徴的で、ジェスチャーを見ると彼らのスピーチが蘇ってくるようであった。そして、その誰ひとりとして、自分がいつも同じジェスチャーを添えて話している自覚がないことも印象的だった。伝えたい思いがあると自ずと体も動く、ジェスチャーは自然発生的なものなので、そこに話者の思いがこもっているのだ。あらためて、身振り・手振りが発信力を増長させることを実感した。

最後に、視線の持つ力をあげたい。いわゆる、聞き手に視線を配って話す「アイコンタクト」のことではない。言葉に出せない思いを目で伝える、という意味である。特に今年度は全員がマスクをしての授業であったので、表情と言うより、目で訴えかけるしかない。とっさに英語の語句が出てこないとき、アイデアが浮かばないとき、「誰か、たすけて！」の思いで周囲を見渡すとすぐに助け船が出てきた。焦るクラスメイトを、「大丈夫、落ち着いて」「ゆっくり考えて」と言う目の表情で励ます場面が何度もあった。この繰り返して、お互いに気持ちを理解して支えあう雰囲気や雰囲気がどんどん構築されていった感触がある。共感を得ると言えば、ディベートで反駁をしていた際、相手チームではなくジャッジの生徒の目をじっと見て「あなたも〜だと思いませんか？」と問いかける場面があった。これには大きく動揺して、このジャッジはすっかり説得されてしまったようだ。

Nonverbal communication にはさまざまあり、それぞれに効果がある。必ずしも英語を話す際に必要なものではないかもしれないが、授業で上述のような経験をすることで、相互に影響を与え合うことは間違いない。教室で授業ができるメリットのひとつとして、今後、nonverbal communication にも意識を向け、より印象的に伝達する方法を模索するように促したい。

7-2 問題解決能力の育成

O.P.の Zoom 授業は、生徒たちの問題解決能力を養う機会になったのではないかと振り返っている。全 8 回にわたり、平均 100 分の Zoom 授業を毎週実施できたのは、生徒たちの知的な好奇心と柔軟性が大きな原動力となり、どんどん新しい試みを積み重ねたからである。

Zoom 授業を始めてしばらくは、不思議な沈黙が一定時間あった。同時に話すと言が消えてしまうの

で、譲り合っているのだ。“Does anyone have a question?” と声をかけると、ひとり、ふたり手があがるので、私が話す順序を決めた。徐々に生徒たちは、タイミングを見計らって “Ah...”, “So ...”, “ Well, I think...” など、発言権を得るためのいわゆる *discourse markers* (ディスコースマーカ―・談話標識) を使って話に加わってくるようになった。これは *turn-taking* (ターンテイキング・発話順番) とよばれ、会話において話す側、聞く側、の立場を変えることで、会話に加わるための一種の技術である。ある程度決まった英語の表現があるのでこれらを先に学んでしまう方法もあるが、気がつけば、生徒たちは自然と、目配せや拳手などの *nonverbal communication* なしに、*turn-taking* ができるようになっていた。彼らの適応力が毎回のディスカッションを無駄のないものに変えていった一例である。

Zoom 授業の3回目で、ブレイクアウトルームを開始した。この日のトピックは、コロナウイルスが収束し受験も無事終わったであろう頃に決行する「夢の卒業旅行プラン」のコンペ。30分の準備の後に3つの班がそれぞれプレゼンをする。ブレイクアウト開始数分後に各ルームを覗いてみると、英語で活発に話しながらも司会、記録係、検索係、スライド作成などを分担して手際よく準備を進めていた。ドキュメントを「画面共有」したり、Zoom のホワイトボード機能も使っていた。生徒たちの柔軟性と向上心に支えられてこの授業が成立していることを実感した。

5回目の授業では、ある生徒が「文化祭で英語の劇をやろう」と提案した。即座に全員の賛同を得て、翌週はすべてそのうち合わせに時間を費やした。脚本の準備や撮影方法など決めることがたくさんあったが、そのどれをも前向きに楽しんで話し合っていた。(その後、Zoom で録画して編集し、ラジオドラマの形態で、10月にオンラインで開催した本校文化祭で発表することができた。)

この Zoom 授業が生徒たちの問題解決能力を育成したのか、あるいは既に持ち合わせていた能力を発揮する場となったのかはわからないが、どんどん新しいことに挑戦して Zoom 授業の可能性を広げてくれたことは間違いない。その意味では、我々教員は授業計画やこれまでの経験値にとらわれず、もっと生徒たちのポテンシャルを信じて、彼らの自主性に任せるべきだと感じた。O.P.の授業に限らず、今後も常に意識していきたい。

VI Zoom を用いたリスニング用動画の作成 -Bob's Stories- 矢田理世

1. 課題について

この課題は、Zoom 上で、非常勤講師の Robert Juppe 先生（以降 Bob）と、英語科の教員が自由におしゃべりをして録画したものを 10 分程度に編集して毎週配信し、合わせて内容の確認 3 択クイズを出す、と言うものである。課題の題名は Bob's Story。字幕をつけた動画もセットにして 5 月 20 日から 7 月 22 日まで 10 週にわたって 2 年生と 3 年生に配信した。内容は以下の通り。

黒死病に伴うケンブリッジ大学閉校とニュートンの発見 / ニュートンの著書『プリンキピア』 / コロナウィルスが明らかにした社会の不平等 / オンライン授業の苦労いろいろ / 今後予想される経済危機 / Bob の世界各地の友人・親族の近況 / 医師と言う職業に対しての Bob の意見 / 御宿のキョン（シカの外来種）が増えた / Bob の御宿のマンションは事故物件 / 本当のヒーローはスーパーで働く人々 / 小麦粉とバターが買えない / Bob の家族・ペットの近況 / パスカルが『パンセ』で書いたことと現在 / *New York Times* からの料理レシピ紹介 / Bob の得意料理「グーラッシュ」 / みんなの料理レポート、など。

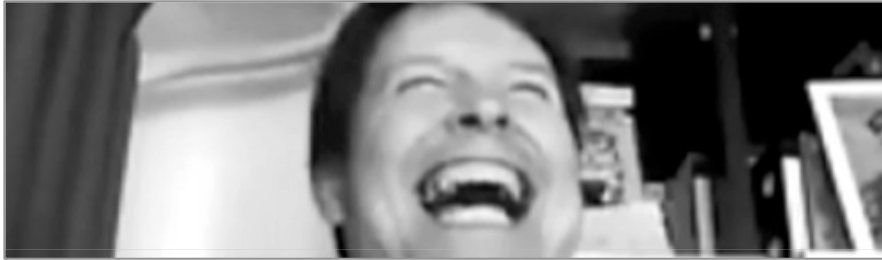
Bob's Story #1



2. 動画の課題とフィードバック

何も打ち合わせをせずに成り行きでしゃべった 1 時間程度の Zoom 録画から、10 分程度でまとめられるようなテーマを決めて動画編集ソフト (iMovie) で編集した。生徒たちは家で見るため、わからないことが周囲に聞けないというストレスを軽減しようと思い、全ての発言を英語の字幕に起こして添えたバージョンも用意した。これに Forms で作った確認クイズを添えて毎週同じ曜日に配信した。クイズは、次頁のように 3 択で 10 問用意した。ザックリと話を理解できればわかるような内容で、語句や文法に関する問題は入れていない。選択肢を工夫し、問題でも笑ってもらえるようなものを用意することも心がけた。動画は 2・3 年生とも同じものであるが、確認クイズは語句などで難易度を調整した。さらに、最後にひとこと書くことを必須としたところ、生徒たちからのコメントが回を重ねるごとに充実していった。覚えた語句や表現に加えて、おしゃべりの内容に関する考察も増えていった。質問や Bob へのメッセージもあったので、これらに対する返信と生徒たちのコメントを数回分まとめて PDF にし、Classroom で数回配信した。

内容確認クイズ第1回



Bob's Story #1 Quiz

Based on the video you watched, choose the best one to complete each sentence.

2. The invitation for this Zoom meeting DID NOT request *

- his e-mail address.
- the password.
- his photo.

3. It took Bob 5 minutes to sign in the Zoom meeting because he had to *

- prove that he was not a robot.
- type his name, Robert.
- remember the meeting.

9. His idea about 'a new normal' is that people *

- will forget everything soon.
- can't change anything.
- don't believe in it at all.

10. The teacher who told the funniest joke is *

- Bob!
- Ms. Yada.
- Mr. Umaba!

課題の感想、Bobへの質問、聞き取りにくかった語句、今回覚えた表現、など自由にひとこと。

Long answer text

.....

内容確認クイズ第5回



Bob's Story #5 Quiz

Based on the video you watched, choose the best one to complete each sentence.

1. Bob sympathizes with the students because they *

- are put in prison.
- have lost lots of their freedom.
- are assigned not so much homework.

2. According to Mr. Umaba, in addition to the coronavirus, American people are facing another crisis, that is *

- Donald Trump's re-election.
- people's indifference to the society.
- the discrimination against black people.

3. Now, many American people cheer doctors as their heroes, but Bob doesn't like it. He calls it *

- 'celebrity disease.'
- 'nine-eleven syndrome.'
- 'the new hero phenomenon.'

10. Bob hates working on computer all day long. He says he wants to *

- throw some stones to Google.
- throw himself from the building.
- throw his computer out the window.

課題の感想、今回覚えた表現、Bobへの質問、難しく感じた部分など自由にひとこと。 *

Long answer text

3年生からのフィードバック集 (抜粋)

2020 コミュ英Ⅲ オンライン課題 フィードバックへのフィードバック

コメントありがとう(抜粋&回答:矢田) 6/16/2020

Bob's Stories

A お褒めの言葉集 (#3 & #4)

この課題が1番オンラインの課題で好きです(笑) / I love this! I hope to have this types of assignment again! / Bob's story 面白くて毎回勉強になるのでこれからも続けて欲しいです。次回も楽しみにしています / 面白かったです! ずっと字ばかり見ていると疲れてしまうので、英語の勉強になりつつ良い気分転換になりました! 次回も楽しみにしています / 面白いので、オンライン授業の間は続けてほしいです / 今回も楽しかったです! またやってほしいです! / 息抜きになりました! / 息抜きになってよい / リスニングの問題みたいな会話じゃなくて、日常的な会話なのが良かったです / ちょっとした待ち時間に回答できるので気が楽です。 / (第2回目期待してます) / 今回も話が面白くて課題をやっている感じではなく楽しめた / この動画、かなり面白いので毎回やって欲しいです / 先生方の掛け合いがいつも面白いです。 / 無機質なリスニング問題よりも面白かったです / ボブズストーリーが1番面白いです / まさに学校に求めた授業って感じでとてもたのしいです!! / Bobの話から新しく学ぶことも多く、聴いていて楽しいです。 / 他の課題より退屈しないし、教材のリスニングとは違って楽しいのでまたやってください! / この課題は楽しいのでまたやって欲しいです / 久々に笑った。また、アメリカの状況について知れた / 興味深い部分と面白い部分が適度にあって、聞いていて退屈しない / 普通のリスニング教材より面白くていいと思います / 相変わらずおもしろかった / この課題ならやる気が出ます。面白いです / 英語科の課題の中で1番楽しいです。もしよければ、英語科オールスターズの先生方のバージョンでも見てみたいです! / 今回も楽しかったです。またやってくれると嬉しいです / 時事的な問題を扱ってくれることによって、意見を知れるだけでなく、どう英語で話せば良いのかわかるので、とてもありがたく感じている / 取り組みやすくて良い課題だと思う / 笑えて楽しかったです / 相変わらず難しいです。でも見ていて飽きません

→ありがとう。楽しく英語を聞いてもらうのが一番の目的だったので、それが達成できているとすれば嬉しいです。「人が笑ってしゃべってるのを見るのって、フツーに楽しいよ。これが宿題なんて超いいじゃん。もっとバカな話しなよ」と、塾と学校と両方からの動画&課題攻めに苦しんでいたうちの中3の息子に励まされ、踏み切りました。

B 質問集

- ソローさんがコーヒーとどう関係するのかまったくわからない。 / David Thoreau がなんなのかわからなかった
→Henry David Thoreau (ソロー)は19世紀に *Walden*(邦題: 森の生活)などを著したアメリカの作家・思想家です。一人で森の小屋に暮らし、自給自足の生活を送ったことで知られています。Bobは、千葉の御宿で一人こもっている生活をソローに例えている、と思われれます。コーヒーとの関係は…コーヒー飲むくらいしかすることない、ということでしょうか。(実際は、オンラインの課題採点に追われて毎日10時間パソコンに向かっていて、気が狂いそう、と嘆いています。)
- 本当にこの写真(問10)はボブが作ったやつなんですか?! That's so insta-worthy! / この上の問題にある写真は本当にBobが作ったものですか?それとも似ている写真ですか?
→The New York Times のレシピから検索して写真だけ貼りました。Bobはインスタどころかスマホ持っていません。とここで、Instagrammable (インスタ映えする)という語も最近よく見ます。
- 本をニュートンがラテン語で書いたというところでみんな笑っていたが、なんで笑っていたのか分からなかった
→笑ったというか、驚きました。ラテン語はローマ帝国時代の言語で、英語やフランス語などヨーロッパ各地の言語に派生していきました。現在はもちろん、ニュートンの17-18世紀でも既に使用されていない言語です。ニュートンが科学的発見を、ラテン語で書いちゃうところがすごい! と思って激しく動揺した次第です。

覚えた表現 #5 Doctors and LIFE

- Make someone's day という表現を始めて知りました。/ you made her day. あなたのおかげで彼女の1日が良い日になった。/ make someone's day は新しく覚えました。嬉しい気持ちにさせるという意味ですね。/"You made her day"という表現をはじめて知りました。素敵ないい返しですね。/ You made her day.の訳はどんな感じになるのか気になった。/ I like the phrase "You made my day!" / You made one's day という表現はかなり使えそうなので覚えておきたい。/ 矢田先生の言っていた make one's day という表現もかっこいいなと思いました。/ You made her day. あなたは彼女を幸せにした
- 私たちが kind of prisons にいる、という表現が気に入り日本語でも使えるとおもった。
- 普段 black lives matter を目にするが、Black segregation を覚えました。
- 浮浪と float は似ていると思った
- 新しく知った単語: phony, exhausting、
- Don't throw yourself. これは自分にもよく響く言葉だったのもあり、印象深い。
- take up~と、segregation という単語を初めて知りました。
- phonyの意味を調べて初めて真意を理解した。/ 初め phony が即席で作った単語だと思ったけれど、調べてみると本当に存在し、また「偽の」という意味であることを知り、さらに面白さを感じました。/ phony という単語を初めて聞きました。/ phony という言葉は初めて聞きました! / phony を初めて知った
- point out 指摘する disturb [他] 邪魔する exhaust [他] 疲れさせる
- real life が面白い表現だと思いました。
- exhausting が字幕なしでは理解するのが難しく、はじめきいた時は exotic かと思ってしまいました。他にも今回は inadequate や discrimination、segregation、phony などの知らなかった単語を知ることが出来てとても勉強になりました。~, but still~という表現も、聞いていてかっこいいなと思ったので機会があれば使ってみたいです。
- discrimination が差別という意味なのを初めて知りました。
- assignment が課題と意味すると知り homework 以外にも使えるものが増えて嬉しく思います。
- 知らない単語があっても大丈夫だと思った。
- ジョークが多くて、こういう風に言うと面白いんだなと発見がたくさんあった。いつか私も英語で面白いことが言えるようになりたい。

Questions:

- ✓ 字幕が一か所 crisis が crises になっていたのが気になりました。
→crisis の複数形が crises です。よく気づいてくれました。発音は最後の s が [z] です。crises [z]
- ✓ 英語話者が使う "gajin"にはどういった意味合いが含まれているのか気になった。単に外国人の略なのか。
→「ガイジン」は一種の差別語とされています。ので、あえて「外人」としての Bob がこの言葉を多少の皮肉を込めて話していると、思います。

覚えた表現 #6 Onjuku

- psychologically という表現は初めて知りました。
- stories→階、Discount→割引などの語彙が増えました。単語帳を使って単語を覚えると何度見ても覚えられない語も多いのに、今回のような実際の会話などで使われている場面で学ぶ言葉はスッと入ってくるのが不思議です。/"~stories high"が「~階建て」を表すのを知らなかったけれど、文脈から予測して理解することが出来たので、そういう聞き方はこれからも続けていきたいなと思いました。/ story が建物の階を表すことを覚えました。/ story high で階数を表せることを初めて知りました。/"story"で建物の階を表すことができるというのを初めて知りました! / 14 stories high で 14 階建てということを表すのを初めて知りました。/ 14 stories high / "story"に建物の階という意味があるのは知りませんでした。/ story に階という意味があることは新たな発見でした!

*story が history を原義として、各階の窓に歴史物語を書いたことから story が階という意味を持った、と辞書にあります。

3. この課題を経て今後活かせること

この課題の配信を続けている間、毎週2学年分、300～400ほど寄せられる生徒からのコメントを読みながら、2つのことを考えていた。

第一に、同じ教材を示しても、生徒それぞれがインプットとして吸収するものは多種多様である、ということ。同じ動画でも、生徒たちそれぞれが実にさまざまな発見や気づきをしていた。新しい単語を覚えられたとか、最近覚えた単語・熟語ができて（聞き取れて）嬉しい、と言う声が多かった。仮定法や倒置や無生物主語の構文など、練習問題でしか馴染みがないものを会話で普通に使うことにびっくり、と言う感想。励ましや共感などをあらかず定型表現も文脈が明確なのですぐに覚えられた、と言うコメント。複数で話すときに、スムーズに話題を振る方法や英語の表現を学んだ、と言う視点もあった。英語の学習に限らず、ニュートンやパスカルなど、他の教科で教わった内容やBobの個人的な考えなどからさまざまに考えをめぐらし、自分なりの意見を述べる生徒も増えてきた。気になった語の語源を調べて紹介してくれたり、教員の発したジョークを冷静に評価してくれる生徒も一定数いた。Bob's Storiesを配信していた3ヶ月、日課となっていたFormsの回答を読みながら、ここまで様々なことに気づき、深く考えているのかと毎日驚くばかりであった。動画の編集には毎回かなりの時間と労力を費やしたが、生徒からのコメントを読むことを励みに続けられた。

次に、この課題について最も印象だったことは、生徒たちからの支持である。課題に対する前向きな感想の多さに正直驚いた。私の教員生活も四半世紀を超えたが、自分の出した宿題をこんなに歓迎されたことはない。6月下旬、分散登校が始まっていろいろ忙しくなり、「Bob's Story そろそろ終わります」と伝えると、「やめないで」「もっと続けて」と言うメッセージがたくさん届いた。宿題をもっと出してくれと言うのである、びっくりだ。その背景について思いを巡らすと、生徒たちの当時のニーズにいろいろな意味で合っていたからではないか。例えば以下の生徒からのコメントを参照されたい、5月と7月に実施された全校生徒アンケートからの抜粋である。「オンライン授業の中で印象的な課題」としてBob's Storyをあげ、その理由を示したものだ。

- このような状況に適応した効果的な課題だと思ったため。
- C英の先生方とBobが楽しげに話している様子が印象的で、また、独自のリスニング教材としてその会話を活用している点が創造的に感じたから。
- Bobの底抜けの明るさに癒やされた気がするし、ついでにリスニングもちゃんとできたから。
- 久しぶりにBobの声が聞けたし課題という感じがしなくて楽しかったから。
- 友達となかなか会えなくて学校のことに手をつけるのが億劫になる中で、お勉強としてではなくリラックスしてリスニング力をつけられるようになっていて、生徒の気持ちに寄り添ってくれていると感じたから。
- 自然と笑顔になった、休校中の人に会えないストレスが少し解消された。
- 課題というより面白い動画を見ているような気分が楽しかったから。また、Bobの個人的な意見なども聞けてこう考えている人もいるのかと思わされることもあったから。

この課題を始めた目的は学習保障ではない。家で退屈している生徒たちに楽しい時間を過ごして欲しい、と言う思いからだ。その意図を汲み取ってくれている生徒たちがいると分かり嬉しかった。そして、生徒たちが喜ぶ宿題を出せたと言う不思議な達成感を得た。

では、この動画課題から、今後、何をどのように活用できるか。

まず、教員同士の英語での雑談を生徒たちに日常的に聞かせることは今後も続けたい。1年生のティームティーチングの授業の冒頭で、これまで通り Bob と日本人教員のたわいもない会話を続けるとして、その後数分間、聞いた内容をグループで確認したり感想を共有する時間をとるのも良いだろう。あるいは、この形態をそのまま踏襲しておしゃべり動画を作り、夏休みの宿題にするのも楽しそうである。夏休み中に配信されたものを、生徒たちは好きなときに、好きなだけ、好きな速さで見て、聞いて、クイズに答える。Bob は1年生の授業しか担当していないため、2・3年生に対してもこの課題で関わってもらえることが出来る。

次に、生徒たちそれぞれが学んだことや疑問に思ったことを伝えてもらい、これを全体で共有する場面をもっと増やすことを検討したい。教室で意見を交換するグループワークは有意義であるし生徒たちの好きな活動だが、時間の制約があり全員の意見に触れることは難しい。紙に書いてもらうと、生徒それぞれの書く字に個性があって、時にイラストも入って楽しく読めるが、全員で共有するために集約するには手間と時間がかかる。Classroom で集めれば授業時間を割くこともないし、編集もコピー&ペーストで済むので楽だが、すべてデジタルなもの、正直寂しい。それぞれ一長一短である。メディアの特性を理解して柔軟に使い分け、学びや意見を共有する場面を増やすことが必要だ。ただし、共有の方法は、紙で配付ではなく PDF などデータで提供し、生徒各自が授業外に自由に見る形態をとるのが良い。一度読めば充分なもので、物理的なファイルに丁寧に保存させるほどのものではない。いろいろな意味で負担や無駄を軽減することを常に意識したい。

オンラインで課題を作成することは同時に、課題の意義を深く見極める機会でもあった。2020年度の開始がオンライン授業で始まり、さまざまな混乱をもたらした。残念ながら5月も休校・オンラインが継続し、生徒たちも教員も明らかに疲れていた。私の家庭でも、小学生と中学生の子ども達が学校の作成したオンライン課題の動画を見ていた。先生の声は聞こえるけど顔は映らない（教育委員会からその主旨の指示があったのだろうと察する）。パワーポイントや教室の板書、さらには校庭の植物などが映され、先生が説明をする。子ども達は、まず教科や先生をみて開く動画を選び、倍速にして見始め、途中で飽きて止め、（結果として）放置していた。数日後フォルダを開くと、動画が更に増えていて激しく動揺する・・・というありさまであったが、親としてこれを怠惰だ、と責めることはできなかった。むしろ、「なるほど、こういうことか」と納得した。

様々な制約を強いられ、社会全体でも家庭内でも重苦しい雰囲気を感じていた頃、1年生の英語表現の授業で Bob と一緒に Zoom 授業をやっている様子を見かけた。そうだ、Bob だ！ いつも明るくて、幅広く刺激的な話をしてくれる Bob と話がしたい！と、強く思った。私だけではなく生徒たちもそう願っているのではないか。ならば録画してみんなに見てもらえば良い、とひらめいた。

オンラインでの課題として、既製のアプリを採用する学校が多くあったことを後に知った。生徒達はアプリで単語テストや構文の空所補充問題を合格点が取れるまで繰り返し、教員はその取り組みがデータとなって届くものを把握するだけで良いそうだ。附属高校でこれらを採択したら、と一瞬想像したが、冷めた生徒達の表情が浮かびあがってきた。

ひとりで家で取り組むなら、楽しいものでないと続かない。英語に触れるだけではなく、同時に新たに学ぶものがあるような興味深い内容が良い。わからないことをそのまま消化不良にしては学びがなく、ストレスになる。自ら学ぼうと思える内容だと、やりがいがある。そして、デジタルであるからこそ相手の顔が見えるものが良い。様々に寄せられた声をまとめるとこのあたりがポイントだろう。オンラインを含め、今後の英語の課題作成に参考になりそうだ。

4. 謝辞

この課題作成にあたり、計3回の録画すべてに参加して下さった Robert Juppe 先生と、馬場幸雄先生に心からの謝意を示したい。おふたりとも非常勤であるにもかかわらず、合計4時間の時間を割いて参加して下さった。附属高校で約30年一緒に仕事をされているだけあり、呼吸が合っていてテンポ良く、何より楽しく会話を進めてくれた。Bob の幅広い教養と豊かな英語の表現のお陰で、生徒たちは多くのことを学ぶことができた。馬場先生の数多くのジョークには、生徒たちの親も一緒に大声で笑っていたそうだ。おふたりの協力なくして、この課題は成立しなかった。

また、回を重ねるごとに多くの英語科の教員の協力を得ることができ、3回目の録画では賑やかな雰囲気になった。協力いただいた英語科スタッフ全員に、この場を借りて感謝の意を伝えたい。

Bob's Story #10



Bob's Story #10 [subtitled]



VII 研究大会英語科発表に参加された方から（アンケートより抜粋）

- 成功例も失敗例もふくめた発表で勉強になりました。
- 今回の実践発表で教師側の視点から授業を見つめることができ、新鮮だった。学生側からだ先生表情が見れて声が聞こえるので対面の授業とさほど変わらない感じがしたが、生徒の表情が見えない教師側は様々な葛藤や難しさがあったことを知った。その中で様々な工夫を凝らし授業を行っていた先生方の取り組みに感動した。
- 本日の実践はいずれも、オンライン授業の長所・短所を冷静に捉えて運営されていたという印象を受けました。生徒とのやり取りを充実させたり、生徒からのコメントを授業に取り入れるなど、オンライン授業以外でも活用できそうなノウハウを学ぶことができました。
- 大人も心身共に疲れていたと思うのに、通常と変わらない授業ができるように進めていかれた筑波大附属高等学校の先生方と学校の組織としての強さ、学び舎としてまた研究機関としての矜持ある姿を、発表とともに見せていただき、大変参考になりました。
- Zoom 利用での授業で実践されているさまざまな工夫が大変勉強になりました。
- 生徒の能力とモチベーションの高さに驚きました。彼らのスキルを伸ばす役割もありますので先生方のご尽力はいかばかりかと存じますが、ポジティブな発表を伺い、自分も置かれた立場で前向きに取り組む意欲がわかりました。励まされました。
- 「指名されるよりもチャットの方が生徒には参加しやすい」ということ、先生の作ったリスニング教材に対して生徒たちが勝手に学んだり気づいたりしている点が特に参考になりました。
- オリジナルのリスニング動画については非常に興味深い取り組みだと感じました。多少英語に抵抗のある生徒であっても自分から興味を持って取り組むことができるという意味で非常に有効だと思ひ、可能であれば本校でも取り入れさせていただきたいです。
- 「オンライン授業だから」といって諦めるのではなく、いかにいままでの授業体制を維持できるかという視点が必要かがわかりました。
- 先生がたそれぞれ相当な時間を費やされてこの危機を乗り越えられたのだと感じました。他の先生との対話を録画するなど生徒には嬉しい企画があって、その発想の自由さが素敵だと思います。
- 早い段階から Zoom 授業を始められていて、すごいなと感じました。ネイティブ教員を交えた会話の動画配信がとても興味深かったです。
- 今回の実践を見て、もっと思い切って普段通りの活動を取り入れてもよかったと感じました。また、生徒の抵抗を軽減するためにチャット機能の活用なども参考になりました。
- チャット機能を使って生徒の意見を共有するという方法は大変おもしろいと感じました。生徒が他の生徒の意見にコメントをつけると意見がさらに広がると感じました。
- 午前の部のお話も含め、まずは教員間のコミュニケーションが大切であることを実感しました。
- Bob's Stories というリスニング用の動画を英語科教員の方々が制作なさっているということをお聞きして、授業時間外でも生徒の学習支援にご尽力されていることに敬服いたしました。